

【機密性 1】

記者会見 配布資料

令和 6 年 9 月 26 日（木）

総務企画部

オープンシティ・プロモーション室

## 定例記者会見 市長コメント（概要）

### ①「釜石市国際外語大学の日本語学科開設について」 資料 1

釜石市国際外語大学校は、本年 4 月に外語観光学科を開設、開校し、このたび、令和 6 年 10 月に日本語学科がスタートする。

これに合わせて、9 月 2 日から釜石市国際外語大学校の校舎 5 階にて、令和 6 年 10 月から入学する留学生の出身国であるネパールに関する展示が行われている。生活習慣や文化について知ってもらえるよう、実際の民族衣装、食品、工芸品などを紹介しており、教員と外語観光学科の学生がその展示、資料作成を行ったと伺っている。9 月 30 日まで開催しているので、ぜひ取材していただきたい。

同じく 9 月 30 日まで、留学生生活用品支援についても受け付けられている。詳しくは、9 月 1 日号の広報かまいしに掲載している。

10 月に入ると、日本語学科留学生の入国が順次進み、10 月 28 日には釜石市民ホール TETTO にて、第 1 回日本語学科入学式が予定されている。

日本語学科の現況だが、入学予定者約 20 名は、全てネパールからの留学生と聞いている。現在、日本国での入国審査を経て、ネパールでの出国にかかる手続きが行われており、留学生は準備が整い次第、順次、ネパールを出国し、10 月以降、数名ずつ何度かに分けて釜石入りする予定である。住居は、浜町にある市営釜石ビルの活用を予定し、今後のアルバイト先は、大学校と市による市内事業所訪問活動を行っているところである。

令和 7 年度以降については、春に 2 年課程の約 20 名、秋に 1 年 6 ヶ月課程の約 20 名と、課程毎に交互に留学生 20 名程度を受入れる予定と伺っている。

また、外語観光学科については、現在の在籍学生は 2 名である。令和 7 年度の学生募集に向けては、多くの方々に大学校を知ってもらい、進路の選択肢のひとつとして認知してもらえるよう、これまで県内外の高校訪問のほか、オープンキャンパスの実施や、テレビ放送におけるコマーシャルの放映などを行っており、入学に関する問い合わせは増加傾向と伺っている。

市としては、引き続き釜石市国際外語大学校と連携して、地元での学び、地元での生活、

地元での定着を進め、三陸を代表する人材育成と学びの拠点となるよう取組を進める。

## ②誘致企業（岩手資源循環株式会社）の工場完成について 資料 2

岩手資源循環株式会社は、令和4年5月に設立され、令和5年2月に市と工場立地協定を締結した。同社は、県内のプラスチック資源循環形成を目指し、自治体収集資源プラスチックを対象とする一般廃棄物処理委託事業のほか、事業者から出る廃プラスチック等を対象とする産業廃棄物処理事業を行うため、平市平田地区に釜石総合リサイクルセンターを建設中である。

このリサイクルセンターは、釜石市平田地区にて令和6年1月に着工し、その後は順調に工事が進み、このたび、令和6年10月に建設完了予定である。新規雇用についても順調に進んでおり、想定通りの従業員数での操業開始に向けて、着々と準備中とのことである。

釜石総合リサイクルセンターが完成するに際して、地域に根差した企業として住民や周辺事業者に親しみを持ってもらうとともに、リサイクルやごみ減量化に対しての理解増進や啓発を目的として、10月31日から11月3日にかけて、岩手資源循環株式会社による釜石総合リサイクルセンター完成見学会が開催される。

10月31日は、自治体などの関係者や報道関係者向けの公開を予定しており、詳細については、岩手資源循環株式会社からご案内予定である。

その後、11月1日に事業者向け、11月2日及び11月3日の土日には、地域の方々や一般の方々に向けた公開が予定されている。なお、見学のほかにも、リサイクルに関する意識を高める啓発展示やイベントを計画しているほか、郷土芸能の披露や、地元飲食店の出店などもご検討されているとのことである。

当地域における釜石総合リサイクルセンターの完成は、脱炭素社会の実現と持続可能な地域経済の発展に資するものであり、市としても、引き続き誘致企業としての伴走支援を行う。